

平成 27 年度 第 1 回地域社会連携本部会議 議事録

1. 開催日時

平成 27 年度 4 月 23 日（木） 10：00～11：45

2. 開催場所

東京・世田谷キャンパス 教育研究棟 1 街区 2501 中会議室

3. 出席者（敬称略）

笹本 修 （世田谷区スポーツ推進担当部スポーツ推進課長）
飯田 能弘 （横浜市市民局スポーツ振興部スポーツ振興課長）
泉 哲郎 （公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団事務局次長）
今井 健雄 （公益財団法人横浜市体育協会地域スポーツ振興部長）
北川 博之 （横浜市青葉区役所総務部区政推進課企画調整係長）
具志堅 幸司 （社会貢献推進機構 連携推進担当、体育学部長）
白旗 和也 （社会貢献推進機構 スポーツ・プロモーション・オフィス オフィスディレクター）

4. 欠席者（敬称略）

八木沢 誠 （社会貢献推進機構 教育開発担当、学生支援センター長）
中里 浩一 （社会貢献推進機構 研究開発担当、総合スポーツ科学研究センター長）

5. 書 記

大高 秀二 （社会貢献推進機構 スポーツ・プロモーション・オフィス アシスタントオフィスティレクター）
森 晴雄 （社会貢献推進機構 スポーツ・プロモーション・オフィス アシスタントオフィスティレクター）
塚田 直彦 （社会貢献推進機構 スポーツ・プロモーション・オフィス 主任）
間宮 将 （社会貢献推進機構 スポーツ・プロモーション・オフィス オフィススタッフ）
大久保 瞳 （社会貢献推進機構 スポーツ・プロモーション・オフィス オフィススタッフ）

6. 配布資料

資料 1 平成 26 年度事業報告
資料 2 平成 26 年度日本体育大学社会貢献推進機構自己点検・評価報告書
資料 3 平成 26 年度日本体育大学社会貢献推進事業外部評価報告書
資料 4 平成 27 年度事業方針・事業計画（案）
参考資料 1 地域社会本部構成員一覧
参考資料 2 スポーツ・プロモーション・オフィス構成メンバー

7. 議 題

1) 報告事項

- ① 平成 26 年度事業報告について
- ② 平成 26 年度日本体育大学社会貢献推進機構自己点検・評価報告書について
- ③ 平成 26 年度日本体育大学社会貢献推進事業外部評価報告書について

2) 審議事項

平成 27 年度事業方針・事業計画（案）について

8. 議 事

議事に先立ち、大高アシスタントオフィスティルクターより、当本部会議開催に関する謝意が述べられた後、人事異動による後任の方々の紹介がなされ、本日の会議資料の確認が行われた。

また、「地域社会連携本部規則第 4 条」に基づく互選による議長選出については、具志堅幸司教授（連携推進担当）が満場一致で選出された。

1) 事業報告

① 平成 26 年度事業報告について（資料 1）

具志堅議長より、平成 26 年度は、当該事業のスタート年度であったことから、本格的な活動に入ったのが 6 月からとなっており、既に構成員には事前に「平成 26 年度事業報告について（資料 1）」としてお示しした旨、報告がなされた。

本件について、以下のとおり意見交換がなされた。

（質問）美化運動とはどういった活動を行っているのか。

（回答）本学の総務部を中心として、学友会の 70 団体が東京・世田谷キャンパスおよび横浜・健志台キャンパス周辺、そして、学生がよく行く場所などの清掃活動を年に 2 回実施している。

② 平成 26 年度日本体育大学社会貢献推進機構自己点検・評価報告書について（資料 2）

具志堅議長の指示により、大高アシスタントオフィスティルクターから昨年度の自己点検評価に関しては、平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月を対象として実施したため、外部評価委員会の日程がタイトとなり、きちんとした評価の形の報告書作成に至らなかった旨、説明がなされた。そこで、今年度からは、評価の対象期間を 1 月から 12 月までの 1 年間として、翌年の 2 月、3 月の 2 ヶ月間で外部評価を依頼し、中間評価は 9 月の時点で、最終的な自己点検・評価は翌年の 1 月に実施する旨、補足説明がなされた。

③ 平成 26 年度日本体育大学社会貢献推進事業外部評価報告書について（資料 3）

具志堅議長より、資料 3 の「平成 26 年度日本体育大学社会貢献推進事業外部評価報告書」については、本来の評価の形式にはなっていない旨、説明がなされた。次回からは、各評価委員に評価報告書を作成し、最終的に 3 月の社会貢献推進事業評価委員会で事業全体の外部評価を実施していただき、報告書にまとめる予定である旨、説明がなされた。

また、大高アシスタントオフィスティルクターより、昨年度は調整不足のため、「教育・研究・社会貢献」の中の「研究」については具体的な活動が実施できていないが、今年度は地域住民の体力的な研究およびスポーツへの関心度に関する研究の 2 件が実施予定である旨、補足説明がなされた。

2) 審議事項

平成 27 年度事業方針・事業計画（案）について（資料 4）

具志堅議長より、平成 26 年度に実施した内容から、質的、量的な充実を図った内容となっているとの概要説明がなされた。また、評価委員会でもご指摘いただいたが、地域への広報が不十分であることを受け、平成 27 年度は、広報誌に類する冊子物を制作することが説明された。

また、大高アシスタントオフィスティルクターより、公開講座について、昨年度は健康に関連した講座が 3 講座、指導者向けの講座が 1 講座の開催であったが、今年度は「健康」をテーマとした講座を 4 講座、指導者向けの講座を 2 講座予定している旨、説明がなされた。

次いで、スポーツ教室は、昨年度「太極拳教室」をスポーツ教室として全 5 回で開催していたが、今年度は健康運動教室として「体操教室」を前・後期、それぞれ東京・世田谷キャンパス、横浜・健志台キャンパス開講を予定している。また、スポーツ教室として「バレーボール」、「バ

スケッチボール」さらに「柔道」の開講を予定している。これらについては、各団体の競技大会等との関連で日程調整することとなるが、現段階で確定しているのはバレーボールのみである旨、補足説明がなされた。

また、昨年度実施した宿泊体験型防災訓練は、平成 27 年度も引き続き実施する予定である。東京・世田谷キャンパスが 7 月、横浜・健志台キャンパスが 10 月を予定しており、地元自治会等と連携をして実施することを検討している。

なお、「する」、「観る」、「支える（育てる）」というキーワードで本事業は展開されているが、自己評価・外部評価でも指摘されているとおり、「観る」の部分が昨年度は実施されていない。しかし、平成 27 年度は、2 年に一度本学が開催する「体育研究発表実演会東京大会（横浜会場）」の実施年度であり、近年の人気沸騰に伴って、11 月 11 日（水）、12 日（木）に横浜アリーナで 2 日間開催の予定となっている。この行事に両キャンパス近隣住民の方々（基本的には世田谷区と横浜市が対象）を人数に限りあるがあるものの、無料招待する予定である。

その他にも、各学友会運動部の練習・試合の公開等学内で調整の上、対応可能なところから着手する予定としている。

また、日体大スポーツフェスタについては機構の目玉として、世田谷・健志台両キャンパスにおいて、子どもが参加できるイベントとして予定しており、小学生を中心に様々な種目を一日で参加体験できるものとした旨、説明がなされた。

広報活動については、広報誌の作成と各種取り組みに係わるパンフレット等を充実させ、可能な限り実施の 2 ヶ月前には関係各所への広報を徹底したい旨、説明がなされた。

最後に、具志堅議長より本事業に関する継続的な協力についての依頼と第 2 回地域社会連携本部会議を 10 月頃に予定している旨、連絡がなされ散会となった。

以上